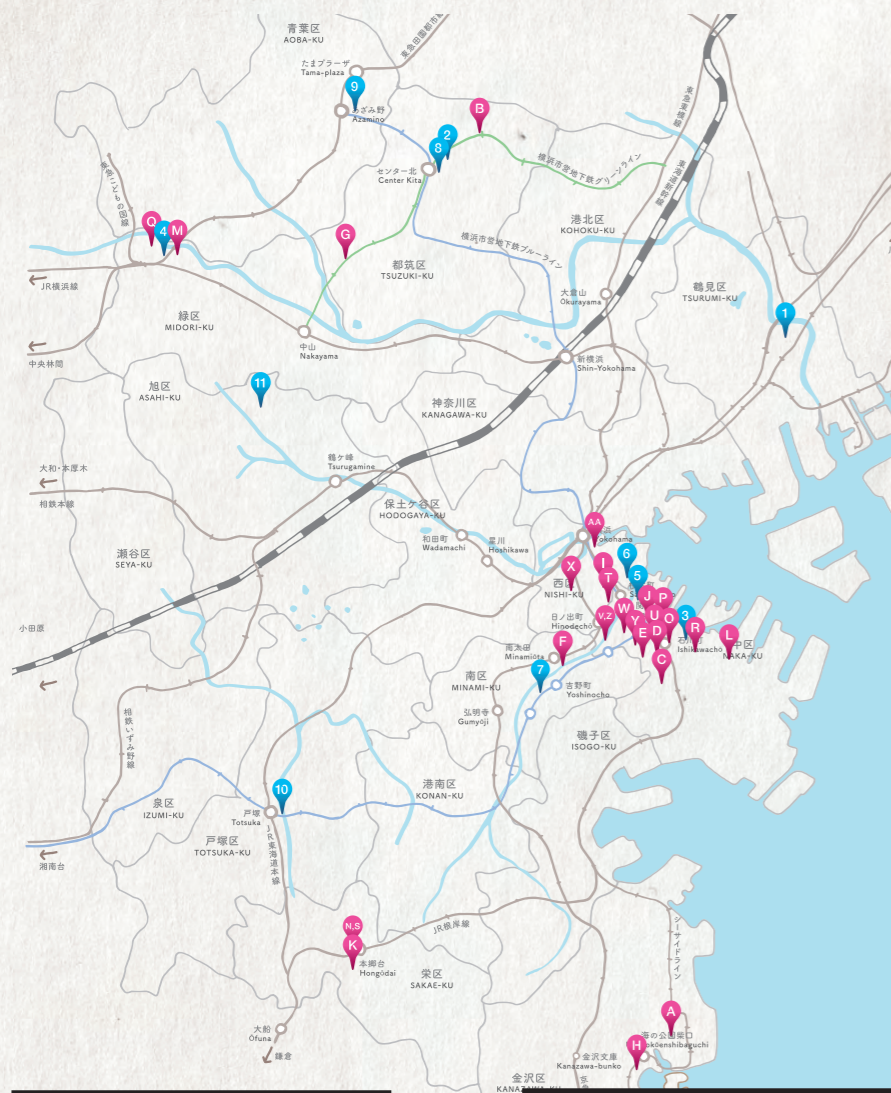


# YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2018参加事業の一覧です。  
情報には変更がある可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。



横浜市の地域文化を支援するための  
「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト2018  
選考委員会による選考を経て、  
今年度は27の採択団体が  
決定しました。

● ヨコハマアートサイト  
2018参加団体  
● 本誌で取り上げた場所



あうたびに、あたらしい  
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら <http://y-artsite.org/>

ヨコハマアートサイト

<b>H</b> 9/16-11/11	海の公園、アサバアートスクエアほか
第20回 金沢文庫芸術祭	
<b>I</b> 7/12-12/11	神奈川県立青少年センター 多目的プラザ
第19回 手づくり紙芝居コンクール	
<b>J</b> 7月下旬-1/31	伸光ビル
『部屋を育てる』アートプロジェクト(セノグラフィック アートの視点から部屋~街を考える)	
<b>K</b> 7/1-11/30	栄公会堂
さかえgaoフェスティバル	
<b>L</b> 7/15-1/31	新山下地域ケアプラザ ほか
ここに響く打楽器作っちゃおう	
<b>M</b> 7/7-12月	アートスペース赤い家
米からアート「二つの米から考える」	
<b>N</b> 7/1-1/31	栄区民文化センター リリス、地球市民 かながわプラザ(あーすぶらさ)ほか
Wakamono Arts Festival 2018	
<b>O</b> 11/16-1/31	横浜山中中華学園 体育館 ほか
こども京劇プロジェクト in Yokohama	
<b>P</b> 8/26-1/31	なから民活動センター、象の鼻テラスほか
PICTURE THIS 2018: 横浜国際フェスティバルフォトプロジェクト	
<b>Q</b> 8/18-1/27	緑区民文化センター みどりアートパーク リハーサル室、ホール
みんなでワークショップ	
<b>R</b> 8/9-8/14	山手234番館
横浜山手今昔 (絵葉書の世界~新関光ニコレクション~)	
<b>S</b> 7/7-1/31	地球市民かながわプラザ (あーすぶらさ)、洋光会館4階自治会館
そのままで輝こう! ~ゴスペルコンサート&ワークショップ~	
<b>T</b> 1/8-1/14	横浜市民ギャラリー、伊勢山皇大神宮ほか
第七回 横浜開港アンデパンダン展&干支の絵展	
<b>A</b> 9/29-10/27	山陽印刷(株)内ほか
「会社まるごとギャラリー2018」	
<b>B</b> 9/25-12/25	アーモンドホープセンター、北山田「あ・る・く」ほか
アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	
<b>C</b> 7/1-1/31	学校法人 横浜調音学院ほか
アート・フォー・コミュニティ~若手アーティスト達が人と地域コミュニティをつなぐためのスタート事業~	
<b>D</b> 9/1-10/31	ひらがな商店街、ひらがな商店街ウエストアベニュー
石川町ストリートアートプロジェクト	
<b>E</b> 7/3-1/29	レンタルスペース 「カドベヤ」
カドベヤ・オープンDAY~つどお・かたろう・つながろう	
<b>F</b> 12/15-12/16	蔦田公園
大岡川アートプロジェクト「光のふるむなま2018」	
<b>G</b> 7/1-1/31	障害福祉サービス事業所 うれしの、象の鼻テラス
かたるべハッピーザ	
<b>U</b> 9/1-9/22	かながわ労働プラザ
映画「どっこい!人間節 寿・自由労働者の街」上映会 in 寿町(横浜市中区) ~寿町をもっと知ろう!最後の1人まで見捨てない街!~	
<b>V</b> 7/25-9/2	シネマ・ジャック&ベティ、横浜パラダイス会館ほか
横浜下町パラダイスマツリ2018 十よこはま若葉町多文化映画祭2018	
<b>W</b> 7月	横浜シネマリンほか
ハマ映画スタンプラリー プロジェクト	
<b>X</b> 7/14-8月下旬	シネマノヴェチェント
横浜・藤棚シネマ商店街2018	
<b>Y</b> 7/2-1/28	長者スタジオ
みんな集まれ!月曜広場	
<b>Z</b> 7/1-1/31	シネマ・ジャック&ベティ、横浜シネマリンほか
横浜を舞台にした連作ショートフィルム 「Life Works」への製作、活動助成	
<b>AA</b> 7/1-1/31	西区福祉保健活動拠点 フクシアほか
LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2018 ~子どもの感性を育く多文化共生グローバルアート活動~	

# ヨコハマアートサイト

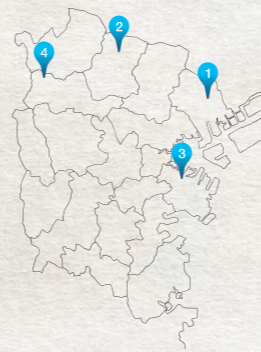
横浜の地域文化を考える・応援する



鶴見区・鶴見の田祭り(地域無形民俗文化財 平成29年11月2日 市指定)

2018 Vol. 016

「特集 味わってつながる」



### 横浜の お米と野菜を いただきます

#### 1 復活を遂げた 田祭りが伝える むかしむかしの農業

いなんどの ひゃくしょうちゅう  
「稲人殿 国々の 百姓中揃えて  
大明神の春田 耕はせ給へ…」

これは、鶴見区・鶴見神社で行われた「鶴見の田祭り」の神寿歌の一部である。舞台中央に置かれている、田んぼに見立てた藁で作った四角い枠の周りで演じられるのは、畝入や種蒔、稲刈といった、農作業の所作だ。

横浜で稲作は行われているのだろうか。横浜市環境創造局の情報によると、横浜市は西区を除い

た全ての区に農地があるが、そのうち米の作付面積（作物を植えている面積）は6%ほどだ。作られた米のほとんどは自家消費されるが、直売所等で販売されているものもある。

この田祭りは、今から800年以上前から伝えられてきたという。当時は毎年正月16日に行われていたが、明治時代のはじめに完全に廃絶されてしまった。その後様々な資料をもとに、1987年に奇跡的な復活を遂げ、今では毎年4月29日に行われている。そして2017年11月には、横浜市の地域無形民俗文化財に登録された。

「横浜の農業（2015年農林業センサス農林業経営体調査結果報告）」によると、稲を販売目的で作付け（栽培）した農家数は2010年の332戸から2015年には245戸にまで減少した。鶴見区では昭和30年代ごろまで水田農業が行われていたが、徐々に減少し、現在では横溝屋敷前に稲作体験用の水田が残るのみである。田園風景が少なくなった今、食文化と生活が地続きになっていることは忘れがちだ。そうしたなかで「鶴見の田祭り」は、かつての風景を思い起こさせる。



都筑区・クッキングサロンハマッ子



3  
和・洋・中の  
料理人が  
文化と料理を考える

NPO法人横浜ガストロノミ協議会は、食を通して地域の活性化を図るため2007年に発足された。37程の各店舗からのシェフ、横浜の飲食にかかわる有志一同、パティシエ、ソムリエ、バーテンダーなどが集まり、小学校や病院での食育活動などを行っている。理事長は霧笛楼・総料理長でもある今平茂さんだ。地場野菜を活かしたメニュー開発も行っている。

活動の中心でもある子ども向けの食育プログラムでは、小学校にシェフが出向き、ともに作業を行う。「口で説明するよりも、一緒に作るだけで自然と多くのことが伝わるんです」。調理はもちろん、食事や片付けも並んで行う。その根底にあるのは、食を通して人のつながりを感じてほしいという願いだ。

横浜ガストロノミ協議会自体も、ジャンルの異なる料理人同士が刺激を受け合う場として結束を強めてきた。「同じ料理人でも当然やり方が全然違うんです。初めは衝突もありましたよ」と今平さんは笑う。少しずつ互いの方法を取り入れることで、新たな魅力を育んできたという。

開港以来、横浜には様々な文化が流れ込んできた。中でも「食」は、人々の中に溶け込みながら、今日もそれぞれの暮らしを彩っている。



2  
食材を通して  
まちの隠れた  
一面を知る

JA横浜 生活文化部地域ふれあい課の飯島美智子さんは「もっと地元の農業について知ってもらう機会を作りたい」と話す。農業体験を通しての食農教育や、動画の製作など、地産地消をテーマとしたさまざまな取組の中でも、オリジナルキッチンを利用した料理教室は人気プログラムの一つだ。2012年、都筑区・センター北駅そばにJA横浜都筑中川支店がオープン。1階が直売所、3階のキッチンスタジオでは『クッキングサロン ハマッツ』として地元の農畜産物を使った料理教室を開講している。

この日のメニューは、中華ちまきを中心とした『縁起の良い食材で祝う！端午の節句』。

このほか農家のお母さんに教えてもらう伝承料理や、市内でレストランを営む料理人による教室などバラエティ豊かなラインナップのためリピーターも多い。

「横浜は少量多品目の農家さんが多く、珍しい作物にチャレンジしているところもあります。直売所では見慣れない野菜に出会うことも」。地場の食材に触れることで自らの暮らしている土地が見えてくる。住宅地と農地が混在する横浜だからこそ、生産者と料理人がつながることで、ともに新たな文化を生み出している。



4  
食卓につながる  
お肉の案内人

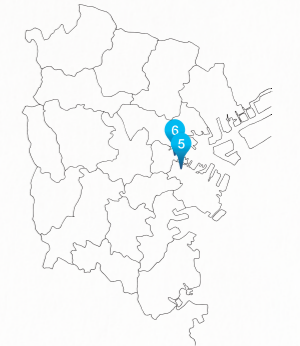
横浜に最初の本格的と畜場が誕生したのは1865年。開港の6年後のことだ。農耕に馬を使うことの多かった関東では、馬喰という牛馬商が仲介し、他地域から牛を運んでいたといわれている。1956年創業の緑区・中山肉店は、かつて馬喰を家業として営んでいた。その後、豚の畜産業を経て小売店を開業したという。

現店主の中山正人さんは『黒毛和牛アーティスト』として店頭に立っている。「誰とどんな場面で食べるのかによって選ぶものも変わってきます。それを伝えるのも重要な仕事の一つ」。地元のお肉屋さんとして愛されながら、他地域からの客も迎え入れる。

近隣の学校や地区センターでは、豚肉を部位ごとに解体していく講座を行っている。パック詰めになる前の状態を見る機会が少ない今となっては、貴重な光景だ。

食事という日々の営みは、風土や季節を楽しむ人々の創造的な行為のひとつといえるだろう。

P.3左  
JA横浜 クッキングサロン ハマッツ  
<https://ja-cookingsalon.jp/>  
P.3中  
NPO法人横浜ガストロノミ協議会  
<https://www.yokohamagastronome.com/>  
P.3右  
中山肉店  
<http://nakayama-niku.com/>



6 5  
ヨコハマアートサイト2017終了  
そして2018がスタートしました！

3月17日(土)、YCCヨコハマ創造都市センターで、ヨコハマアートサイト2017報告会「アートの現場から見る地域文化」を行いました。2017年度は、27の団体が市内で文化芸術活動を行いました。各団体3分の事業報告を実施。会場にはゲストとして松本道雄さん、吉野さつきさんのお二人をお招きしました。最後は交流会が設けられ、参加者同士がこの1年を振り返る場となりました。

そして6月6日(水)はBUKATSUDOにて、2018年度のキックオフ・ミーティングを開催しました。会場では団体同士が活動の紹介をし、「若年層の参加を促す工夫が知りたい」、「助成が切れた後も活動していくにはどうしたらよいか」といった日頃抱える悩みを

ざっくりばらんに相談。地域に根ざした活動をする皆さんが、新たな交流を持つ機会となりました。今年度は昨年度と同数の27団体が参加。そのうち7つの団体が新規参加となりました。子育て中のお母さんが楽しめるゴスペルコンサート、「部屋」を育てるアートプロジェクトなど、多種多様な取組が市内の各地で行われます。ヨコハマアートサイト2018の事業期間は7月から2019年1月まで。採択団体の一覧は今号の裏表紙に掲載しています。

さらに、ヨコハマアートサイトでは、アートと地域の関わりについて考える研修と交流会の場「アートサイトラウンジ」も開催しています。横浜の地域文化に興味のある方でしたら、どなたでもご参加いただけます。



キックオフ・ミーティングの様子



報告会の様子

ヨコハマアートサイト2017報告会「アートの現場から見る地域文化」【会場】YCCヨコハマ創造都市センター3F(中区本町)  
【ゲスト】松本道雄(認定非営利活動法人市民セクターよこはま 副理事長)、吉野さつき(学校法人愛知大学 文学部 人文社会学科 教授)  
キックオフ・ミーティング 【会場】BUKATSUDO HALL(西区みなとみらい)

### 7 まちに流れる大岡川が育んだ人々の営み

南区は外国人人口が市内でも3番目に多いまちです。なかには、中華街で働いている方もいるようで、自転車で職場に通われる姿を見かけることもあります。さまざまな国からいらした方が飲食店を経営されていて、いろいろな国のご飯を食べることもできますよ。また、お祭りも盛んなまちです。以前、お祭りの日が台風にぶつかったことがあったのですが、参加者の皆さんはお神輿にビニールをかけて決行していたことを覚えています。

若尾久志 館長  
(吉野町市民プラザ)

このほかにも、毎年9月中旬に例大祭が行われるお三の宮日枝神社は、住民のアイデンティティなんじゃないでしょうか。日枝神社は、江戸時代に開発された、大岡川と中村川、JR根岸線を囲む入江の埋立地である吉田新田の鎮守として、まちを見守っています。

区を中心を流れる大岡川は、まちと切っても切り離せない関係だと思えます。大岡川はかつて氾濫を繰り返していたこともあり、防災に関する意識が高い方が多いと感じます。川の氾濫だけで



大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2017」の様子 撮影:若尾久志



撮影:若尾久志

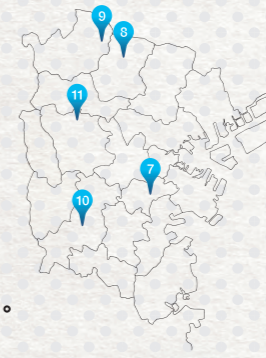
なく、災害や非常事態が起きたときに、隣人と顔見知りであるかどうかというのとはとても重要なことです。そこで、まちの人と出会うきっかけとして、お祭りがとても大切になってきます。実際に、町内会のお祭りに、多国籍の子どもが参加している姿を見ることがあり、お祭りは住民の方々の繋げる重要な文化、アートだと感じます。

ヨコハマアートサイトに長く参加している「大岡川アートプロジェクト」は2008年から、大岡川周辺にアートを展開する「光のぶるむなあと」というイベントを行っています。実行委員会は市民で構成されていて、光、音楽、アート、食の4要素をもとに、地域住民の交流を推進しています。地域の自治会長だった杉山さんも、実行委員長として地域力を高めるため、企画を成功させようと毎年尽力していました。とても残念なことに、杉山さんは昨年お亡くなりになりましたが、地域の方々が「光のぶるむなあと」はこのまちに欠かせない風物詩だ」と準備の手を止めませんでした。

実は、光のぶるむなあととは元々吉野町市民プラザが声かけて始めたイベントだったんです。しかし、当館が主導になるよりも、市民主体の実行委員会を立ち上げた方が良く、当時のプラザが考え、今のカタチになっています。

吉野町市民プラザは、吉野ポンプ場のうえに建設された施設です。流入した雨水を、ポンプで大岡川、中村川に排水しています。ですので、とても防音性が高く、和太鼓の練習に来てくださる市民の方が多いですよ。これも、大岡川の恩恵かもしれませんね。

### 事務局うろうろ日記



ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

8 3月21日(水)

「銭湯と横浜」展を目当てに、横浜市歴史博物館と横浜開港資料館をはしご。昨年閉店したばかりの戸塚区・矢部の湯の物が多く並んでいて、不思議な気持ちになる。脱衣場に貼られていたとして展示されているのは、見慣れたポスターやチラシ。これからは他の銭湯に行っても、壁にかかっている物をいちいち感慨深く見てしまいそう。



10 5月5日(土)

戸塚区・柏尾川に鯉のぼりが泳いでいた。桜橋にかけられた沢山の鯉のぼりは、近隣にある7つの小学校が協力して制作したものだそう。一つ一つ異なる柄の、カラフルな鯉のぼりたちが青空に揺れるのを見てみると、こちらまでのびのびした気分になってくる。川べりでは、子どもたちが魚を追いかけはしゃぐ声が響いている。



9 4月29日(日)

横浜市民ギャラリーあざみ野で「カメラのしくみ」展。1800年頃に使われていたというカメラの原型「カメラ・オブスクーラ」など、初めて見るユニークなカメラがずらりと並んでいる。手の中にすっぽり収まりそうなサイズのカメラは、当時お土産用として流行したものとか。2階のフェローアートギャラリーも併せて鑑賞。



11 5月13日(日)

横浜動物の森公園予定地にて自然とアートが寄り添うような活動を続けている「Group創造と森の声」によるワークショップ「森とあそぼう」に参加するため、緑区へ。穴を掘って落ち葉のプールを作ったり、木にかけたロープでブランコをしたりと、童心に帰って森を満喫する。秋には森を会場にした野外美術展も計画中とのこと。



### ヨコハマアートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

### 事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局  
(STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団)  
〒220-0004 横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル 208  
(認定NPO法人STスポット横浜 地域連携事業部 内)  
TEL:045-325-0410  
FAX:045-325-0414  
WEB: <http://y-artsite.org>  
MAIL: [office@y-artsite.org](mailto:office@y-artsite.org)

@Y\_Artsite

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関するを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

### 季刊ヨコハマアートサイト Vol.016

発行 ヨコハマアートサイト事務局  
編集 認定NPO法人 STスポット横浜  
テキスト 小川智紀 池田友実 加納美海  
デザイン 相澤事務所株式会社  
撮影 福井裕子  
印刷・製本 株式会社 三島印刷  
発行日 2018年6月29日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしております。